

# 編集長インタビュー

阪村産業株式会社 様

成岡:では、今日は、阪村産業株式会社の代表取締役社長の山上賢司さまにお話を伺います。まず、御社の事業の概要を教えてくださいませんか。

山上:当社は、昭和40年に創業された「ネジ及び金属部品」の製造メーカーです。売上の60%が「ネジ」です。「ネジ」と言ってもその用途や種類は多岐にわたっており、お客様は自動車メーカーさんが多いです。

成岡:従業員や売上などの数字面のデータを少しお願ひできますか。

山上:従業員は約130名で、売上規模は53億円くらいです。事業所は、京都本社と本社工場が京都府の久御山にあり、宇治田原にも工場があります。営業所は、東京、名古屋、大阪にあり、海外には米国オハイオ州に拠点があります。

成岡:御社の事業の特徴や強みとはどういうところにあるのでしょうか?

山上:当社の強みは、産業用の「ネジ」の専門メーカーであり、顧客のニーズにことごとくつきあって応えられるということです。素材、サイズ、用途、機能、形状、価格などいろいろな要素があり、そのスペックは一律ではありません。そのどれもに、きちんとした技術を持ってお応えできるのは、当社だけだと自負しております。

成岡:ここまでの規模とレベルになるには、いろいろなことがあったと思いますが、事業の転換点とはどんなことだったのでしょうか?

山上:そうですね、「ネジ」は基本的には産業用の素材が中心ですから、製造業であるメーカーさんの業績に大きくその需要が左右されます。特に、バブルの後遺症で、製造業の活力が落ち込んだ時期は大変でした。新規の技術開発、品質レベルの維持、コスト競争力の追求などで、大きな成果があったことが転換点だったと思います。当社がISO9001を取得したことも、以後の品質のレベルアップに大きく寄与したと思います。

成岡:いま、現場は、ものすごく忙しいように感じますが、やはり自動車産業が好調なことが原因でしょうか?

山上:そうですね、お客様の60%が自動車産業なので、いま、トヨタさんをはじめ、自動車メーカーが好調で、残業、残業で、大変現場は忙しいですね。まあ、ありがたいことだと思っています。ただ、6割が自動車だと、自動車が少ないと、もちろん影響を受けるので、ある意味、怖いところがあります。

成岡:ところで、「ネジ」と簡単に言っても、いろんな種類があると思いますが。

山上:そうですね、簡単な普通の「ネジ」から特殊な用途のネジまで、数え切れない種類の商品があります。また、「ネジ」そのものを製造してから、メッキなどの後工程の加工もあるので、バリエーションが非常に広いのです。用途的には、自動車メーカーを始め、家電メーカーさん、住宅建築、産業用機械などが、主要なお得意様になります。

成岡:社長の今後の会社にかける想いを語っていただけますか。

山上:当社は「ネジ」の専門トップメーカーなので、技術力と開発力、そして製造力が命だと思っています。

製品の付加価値とは、やはり他社では製造できないものが、「阪村なら作れる」というのが、当社の付加価値だと思っています。

成岡:今後の計画などをお話していただける範囲でお願いします。

山上:製造ラインの強化を検討しています。いま、需要が旺盛な時期なので、ここで将来に向けた積極的な投資をしておかないといけないと思っています。また、新規商品の開発や、生産性の向上に積極的に投資をしたいと思っています。

成岡:新商品の開発はどういう感じで進むのでしょうか?

山上:まず、お客様のニーズを顕在化する事が重要です。それからコストと、工程にどれくらい手間をかけられるか、後工程の加工はどうすればいいのかを検討します。それらを総合的に勘案してコストを試算します。開発



ナット事業部商品

の途中でやめることもあります、非常に素晴らしい製品になるときもあります。

成岡:ロットの大きさにも随分左右されますね。

山上:そうですね。最近は、多品種、小ロット、短納期、低価格が、キーワードですね。製造業としては厳しい環境です。でも、独自開発の商品がないと、製造の活力がそがれますから頑張っています。

成岡:今日はどうもありがとうございました。今後のご発展をお祈りしております。

## <企業主要データ>

会社名: 阪村産業株式会社

代表者: 山上賢司

資本金: 98,000千円

創業年: 1965年(昭和40年)3月

年高額: 5,300百万円(2005年8月決算)

所在地:

(本社) 〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山新開地5-1

TEL/FAX: 0774-43-7010/0774-41-7123

E-mail: ind\_skm@sannet.ne.jp



本社ビル